学校研究

１　研究主題

「主体的・対話的に考え，学びを深める児童の育成」
～　二年次　つなぐ　～

２　主題設定の理由

（１）学校教育目標から

本校での６年間の学びが社会生活の礎となるよう，教育目標を「心身ともに健康で，主体的・創造的な児童の育成」として定め，「本気で学び創造する」児童の育成に努めている。この目標を具現化するために，授業はもちろん各種行事や児童会活動，地域の活動等で主体的に「表現する場」を設けてきた。また，学校生活の基盤として，勤堂塾塾則に則した教育活動，語先語礼の挨拶，自問清掃等を掲げている。昨今，加速度的に変化する情報化社会に順応する課題解決力の育成を目指して児童の対話を中心にした授業を試行している。

（２）これまでの研究の経過から

昨年度，全国学力学習状況等調査から，各教科の教科用語を用いた記述や題意に適した記述に課題が見られた。特に算数科では，記述問題の解答が不明瞭であった。

そこで，昨年度から研究教科の中心を算数科に据え，三年計画の一年次は「根拠を筋道立てて明確に表現できる」児童の育成を目指した。「用語を使ってわけを表現しよう」という具体的目標を定め授業改善に努めてきた。成果として，昨年度実施の県の評価問題の記述式問題において順序立てて解答する姿が見られるようになった。

しかしながら，今年度，児童の記述式解答において，筋道立ててわけを説明しようとしているものの，算数用語の理解，記述の曖昧さは依然残っており，基礎基本の定着不足が露呈された。また，全国学力調査の質問紙調査では，算数科は大切であるが，好意的には捉えておらず，学習内容をわかりやすく表現することを追求する姿に課題が見られた。さらに，授業で学習したことが実生活に生かされていると感じている児童が少なく，算数科の楽しさを味わえていない現状が浮き彫りになった。

（３）今年度の取組

過去数年間国語科の三角ロジックの研究を進めるとともに，根拠をもとに自分の考えを持たせることに取り組んできた。昨年度，本研究一年次，わけを大切にし，見通しを持たせて授業を展開させてきた。その結果，どの教科においても自分の考えを書ける児童は多い。

しかしながら，ノートに書いた大切な宝でもある自分の考えを発表できず，また他者の考えとの比較，検討，補完をできずに時間が過ぎ，教師の提示する一つの解法を待つ受動的な授業姿勢が見受けられた。話して納得して学ぶから楽しい。算数科のおもしろさを伝えたい。

そこで，本研究の二年次は，which 問題（選択型問題）を通して意図的に対話の広がり生み出し，教師の問いかけによって深い学びへと誘い，考えの深化へと繋げる。研究主題を「主体的・対話的に考え，学びを深める児童の育成 ～二年次　つなぐ～ 」と設定し，算数科に重点をおいて対話的な学びの研究を進める。目指す児童の姿の【深い学び】においては，思考の部分に焦点を当てる。研究達成のためには，指導者の授業改善が必要不可欠である。

３　研究の内容

（１）めざす児童の姿

【主 体 的】…見通しを自分の考えと繋げて筋道立てて書こうとする子（一年次）
【対 話 的】…話し合いを通して新しい気づき，学びへ繋げようとする子（二年次）
【深い学び】…関わり合いを通して洗練された思考・判断・表現へ繋げる子（二年次，三年次）

（２）研究仮説

本校の実態をもとに，今年度の研究仮説を下記のように設定した。

安心した学びの場で，話し合いを通して児童の発言を繋ぎ，深い思考へと結び付ければ，算数科を学ぶ楽しさを実感し，主体的・対話的に考え，学びを深める児童の育成につながるだろう。

（３）研究方法の具体　研究二年次の具体的授業の展開は以下の３点である。

【対話的】…which 問題（選択型問題）
・選択型の which 問題を通して，意図的に児童同士の広がりのある対話へ繋げる。
【深い学び】…教師の問いかけ
・児童の発言をより深い，洗練された思考へと繋げるための切り返しの問いかけを行う。